LIXIL

京香 建仁寺垣・細美垣 ユニット型 間仕切りタイプ 取付説明書

●このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

●この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施工者、使用者様への危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。

●この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号	記号の意味
⚠警告	●取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。
⚠注意	●取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号	
ポイント	●取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。 ●守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
※	●取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。 ●取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。
補足	●説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

＜施工の前に＞

⚠警告

- フェンスは隣地境界を目的に設置するものです。防護柵や手すり等としては使用しないでください。
- がけ上など、転落したらケガのおそれのある場合は、設置できません。

⚠注意

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 正しく施工，組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。

＜施工上のご注意＞

⚠注意

- 柱埋込み時には水抜き孔を塞がないように施工してください。柱の腐食が促進されるだけでなく溜まった水が凍結し、破裂するおそれがあります。
- 柱の内部にモルタルを詰めたりしないでください。腐食の原因になります。
- 現場で金具や連結部材を組付け・締結する場合は、施工後に締結具合を必ず確認してください。締結不良は風による破損・飛散事故の原因になります。
- ケガ防止のため、キャップ・カバーは必ず取付けてください。

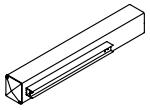
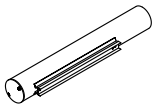
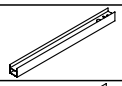
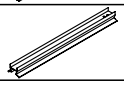
＜基礎工事について＞

⚠注意

- コンクリート（またはモルタル）には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要な場合は、非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。

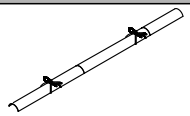
■梱包明細書

1 柱

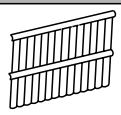
名　称	略　図	員　数																		
		角　柱										丸　柱								
		主　柱			端　柱			段違い施工柱				主　柱			端　柱			コーナー柱(段違い施工共通)		
		T-6 T-10 T-14 T-18	T-22 T-26	T-30	T-6 T-10 T-14 T-18	T-22 T-26	T-30	T-14 T-18	T-22	T-26	T-30	T-6 T-10 T-14 T-18	T-22 T-26	T-30	T-6 T-10 T-14 T-18	T-22 T-26	T-30	T-6 T-10 T-14 T-18	T-22 T-26	T-30
主柱 角		1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
端柱 角		—	—	—	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
段違い施工柱 角		—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
主柱 丸		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	—	—	—	—	—	—
端柱 丸		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	—	—	—
コーナー柱 段違い施工柱共通		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1
パネル受け部材 角柱用		—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
パネル受け部材 丸柱用		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1
パネル受け部材上キャップ 丸柱用		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	1	—	—	2	—	—
パネル受け部材上キャップ 角柱用		2	—	—	1	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1-① φ4X13バインドピアスネジ D=8		—	—	—	—	—	—	5	6	7	8	—	—	—	—	—	—	6	8	10
1-② φ4X12トラスタッピンネジ1種 D=8		4	6	8	4	3	4	4	6	6	8	4	6	8	4	3	4	4	6	8
注意シール	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
取付説明書　C182	—	—	—	—	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	—	—	—
取扱説明書　UC014	—	—	—	—	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	—	—	—

※角柱用のコーナー柱は、丸柱のコーナー柱を使用してください。

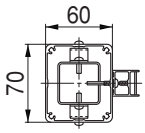
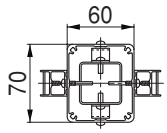
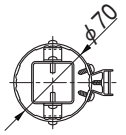
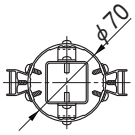
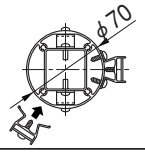
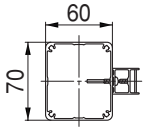
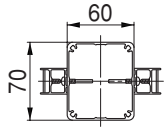
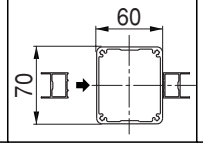
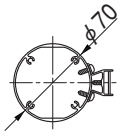
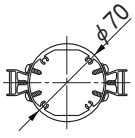
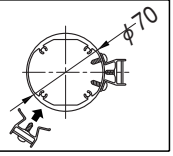
2 笠竹セット

名　称	略　図	員　数	
		W10	W20
笠竹		1	1
笠竹取付金具		2	4
2-① φ4X13バインドピアスネジ D=8		2	4

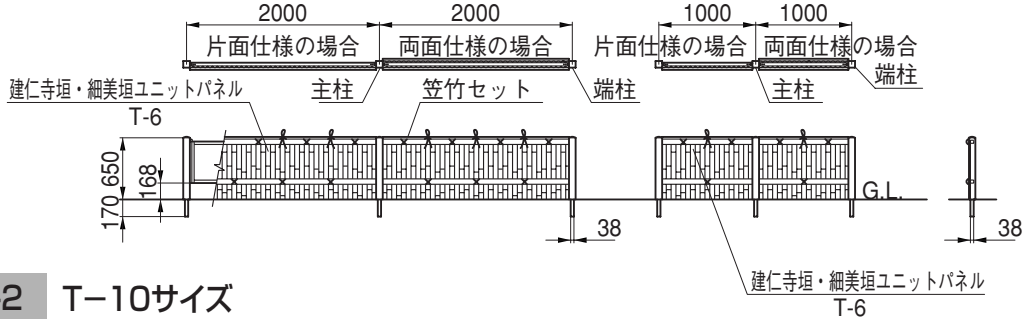
3 ユニットパネルセット

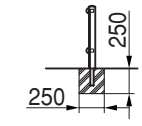
名　称	略　図	員　数	
		T-6,10	T-8
パネル本体		1	1
側枠上キャップ		2	2
側枠下カバー R		1	—
側枠下カバー L		1	—
3-① φ4X12サラタッピンネジ3種 D=6		2	2
3-② φ4X12トラスタッピンネジ 1種D=8		4	—

1.基本寸法および施工図　※(　)内寸法は、角柱の場合です。

	角柱			丸柱		
	端柱	主柱	段違い施工柱	端柱	主柱	コーナー柱
T-6,T-10 サイズ						
T-14,T-18 サイズ						

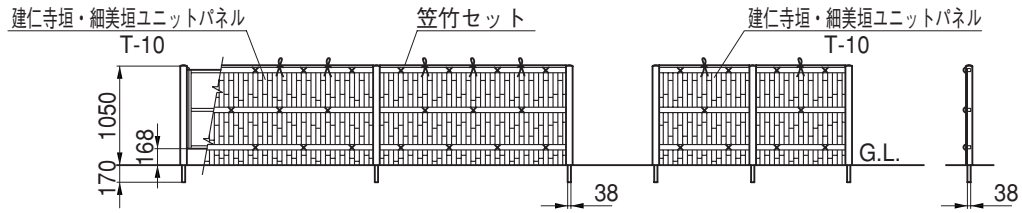
1-1　T−6サイズ

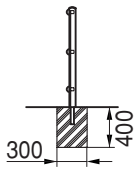




独立基礎の場合

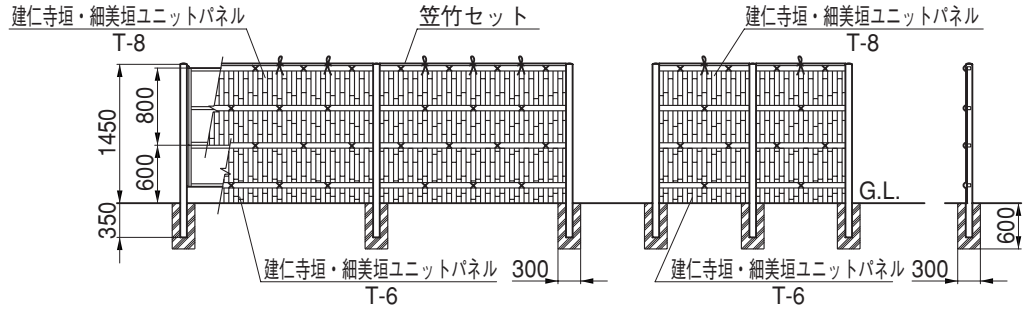
1-2　T−10サイズ



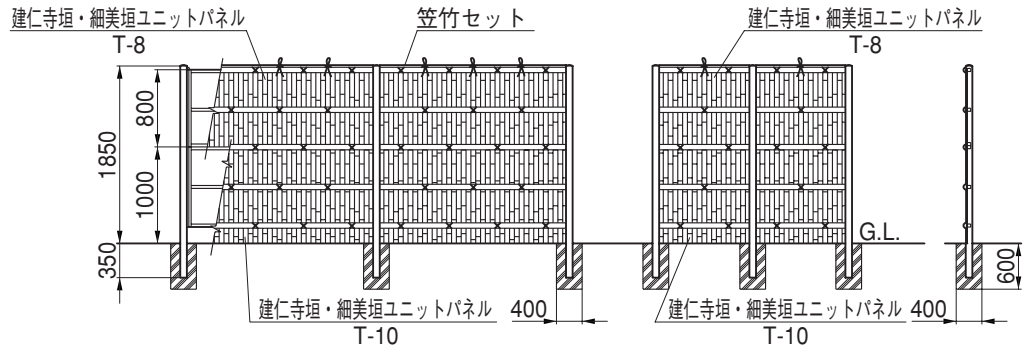


独立基礎の場合

1-3　T−14サイズ

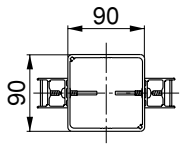
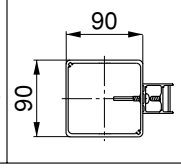
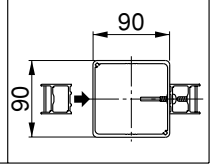


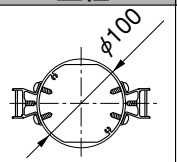
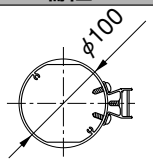
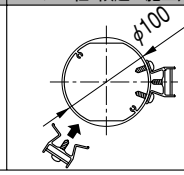
1-4　T−18サイズ



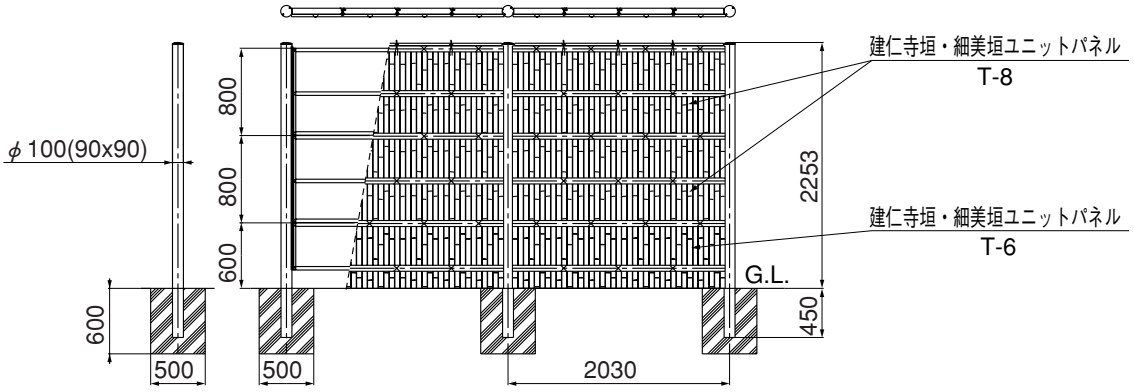
C182_201210I

1. つづき

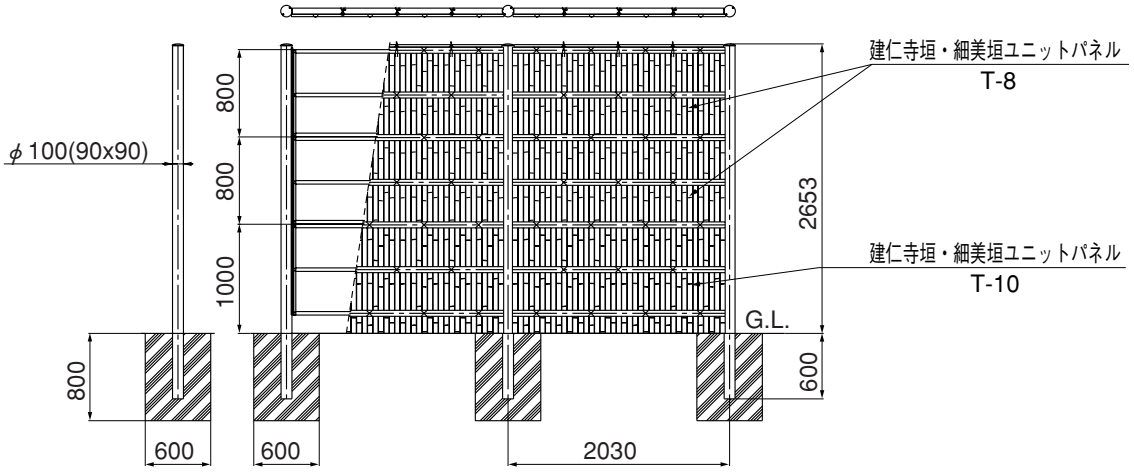
T-22 T-26 T-30 サイズ		主柱	端柱	段違い施工柱
	角柱			

	主柱	端柱	コーナー柱･段違い施工共通
丸柱			

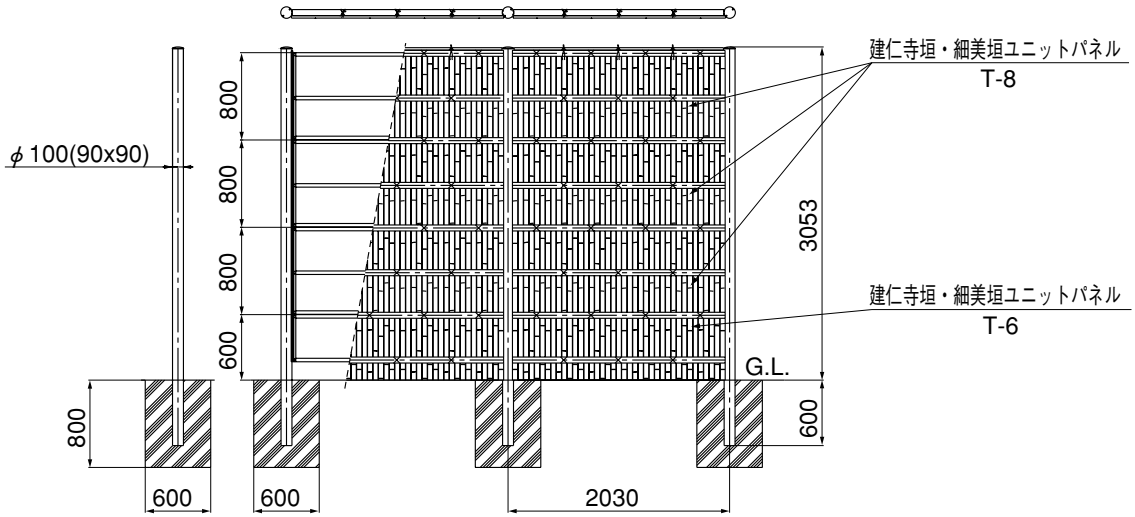
1-5 T−22サイズ



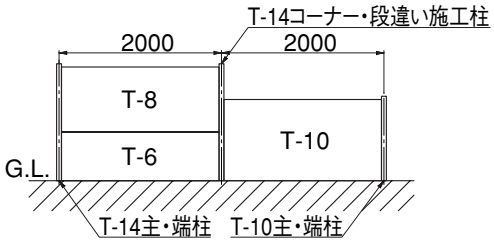
1-6 T−26サイズ

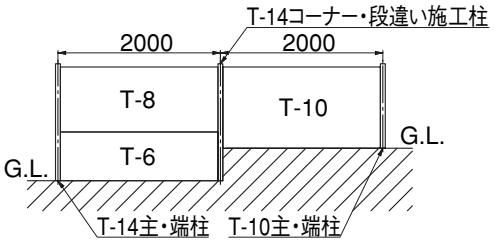


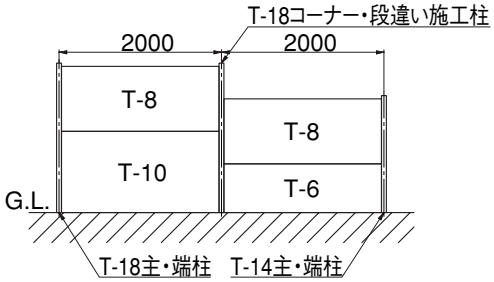
1-7 T−30サイズ

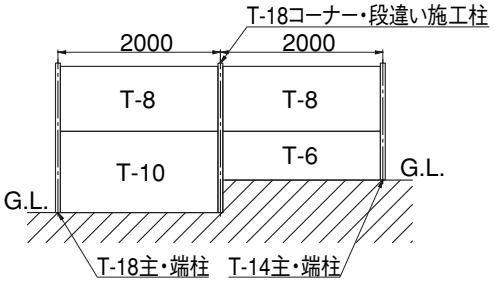


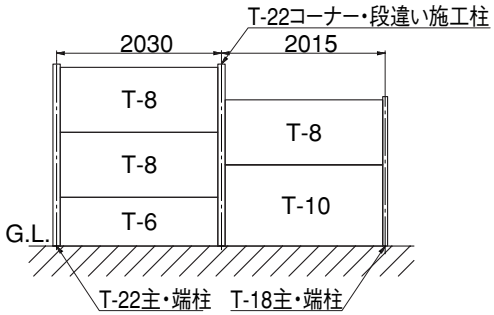
1-8 段違い施工高さの組合せ例

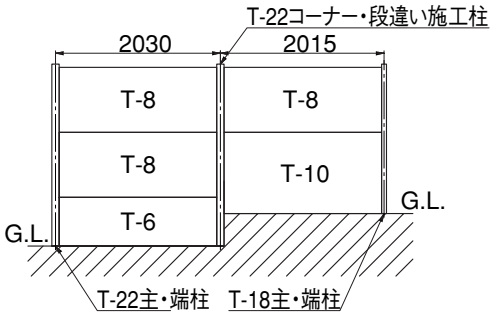


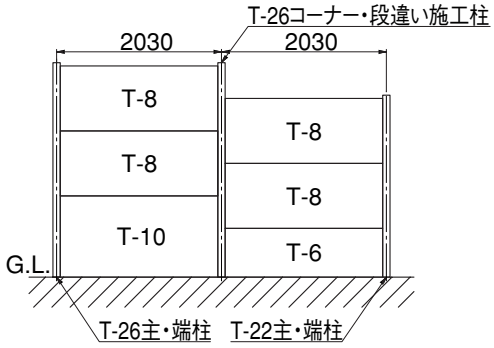


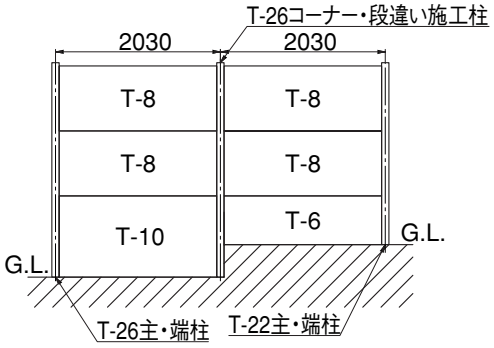


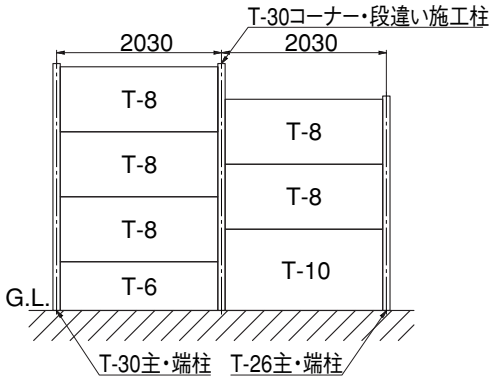


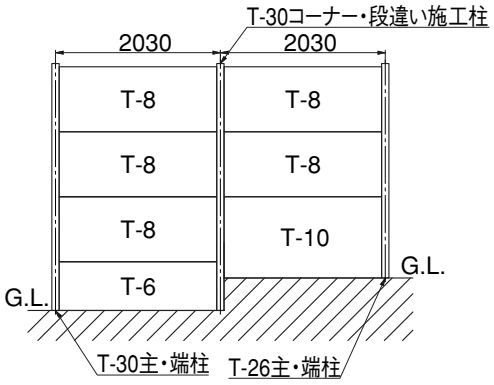












2.コーナー柱、段違い施工柱、パネル受け部材の加工・組付け

2-1 柱・パネル受け部材の加工

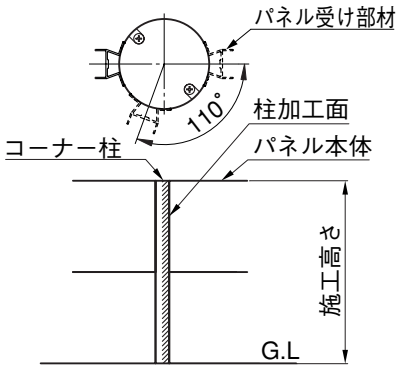


図2-1　コーナー柱の場合

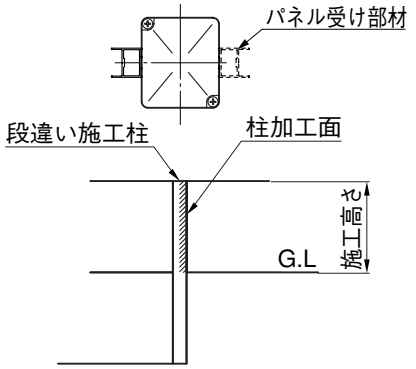
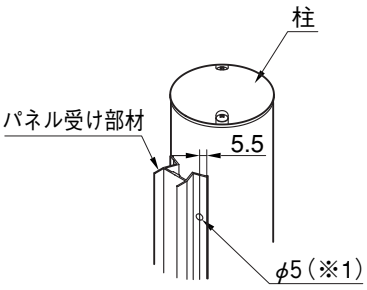
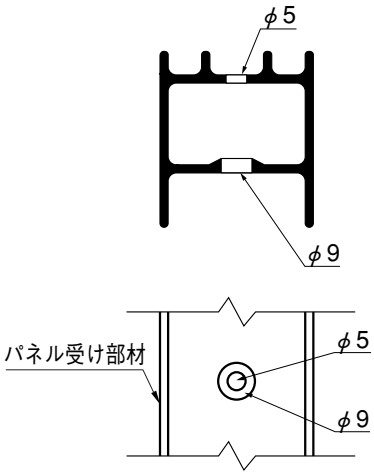


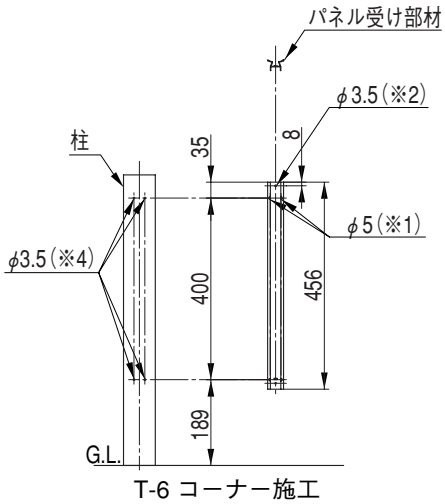
図2-2　段違い施工柱の場合



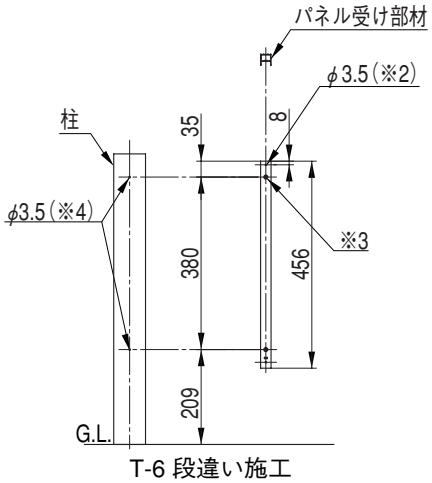
※1パネル受け部材取付孔
図2-3



※3.パネル受け部材取付孔
図2-4



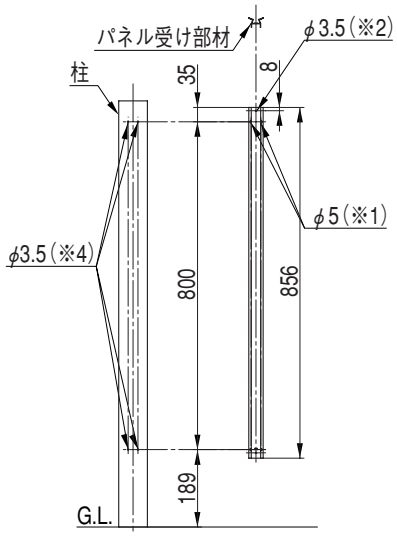
T-6 コーナー施工



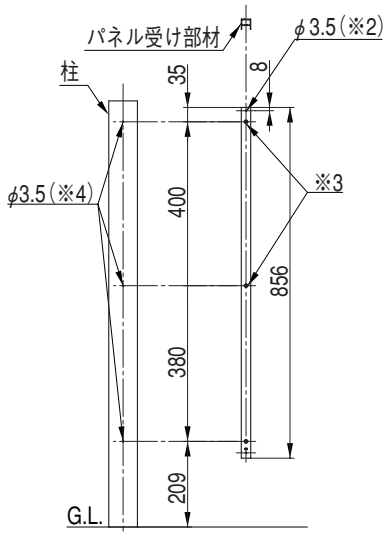
T-6 段違い施工

図2-5

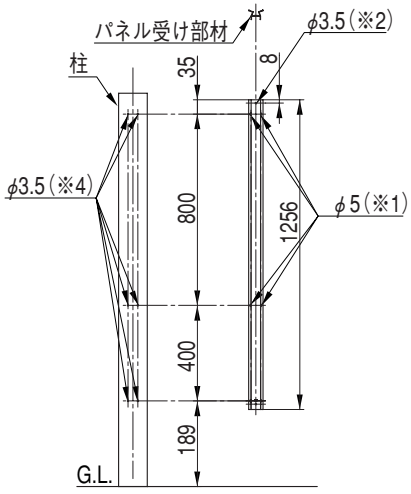
2. つづき



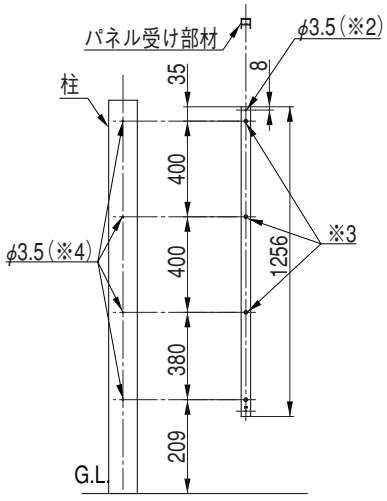
T-10 コーナー施工



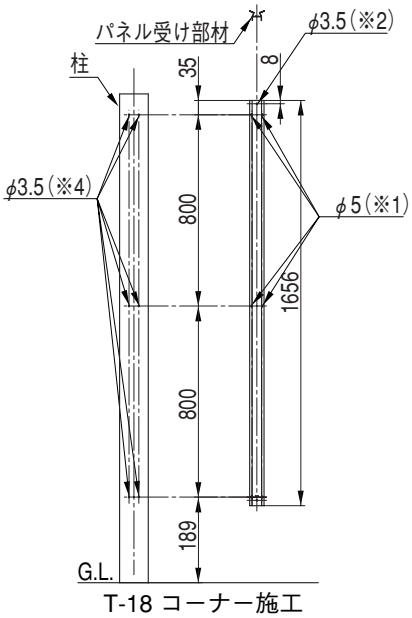
T-10 段違い施工



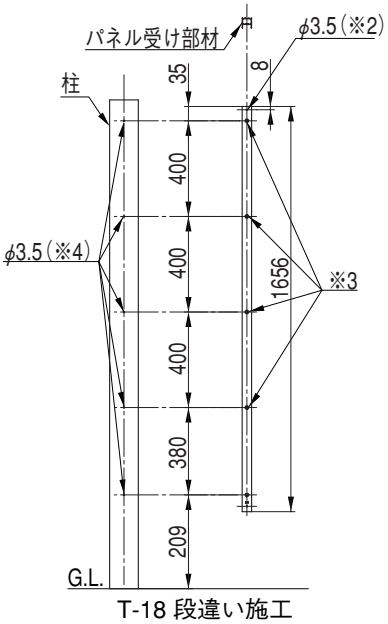
T-14 コーナー施工



T-14 段違い施工



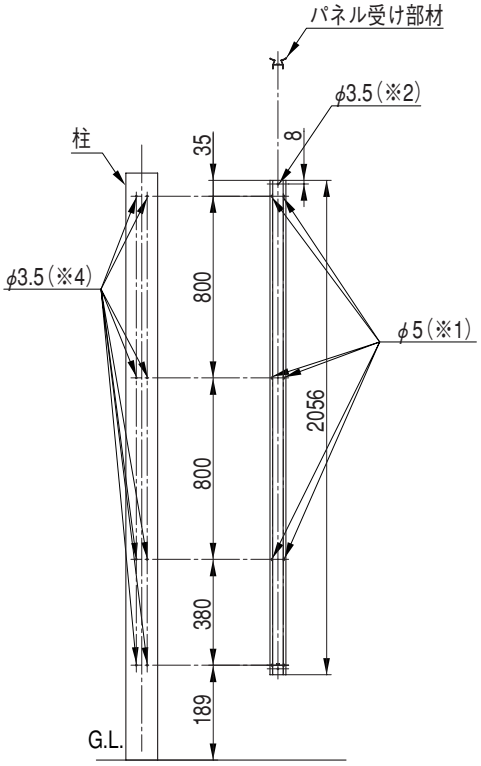
T-18 コーナー施工



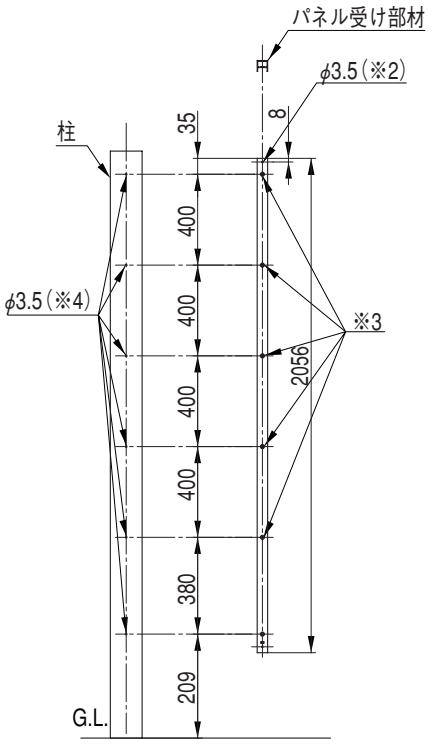
T-18 段違い施工

図2-6

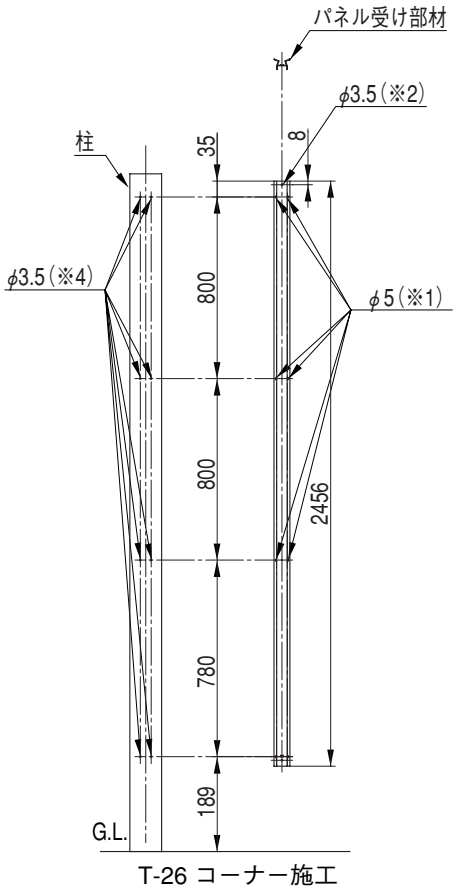
2. つづき



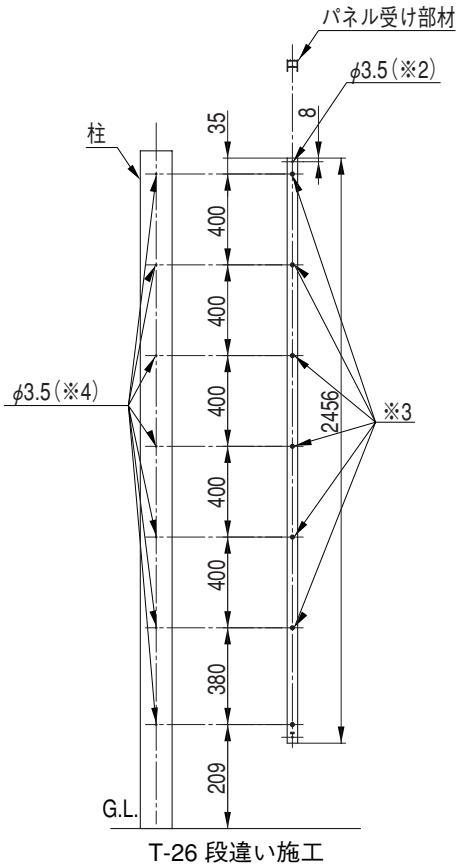
T-22 コーナー施工



T-22 段違い施工



T-26 コーナー施工

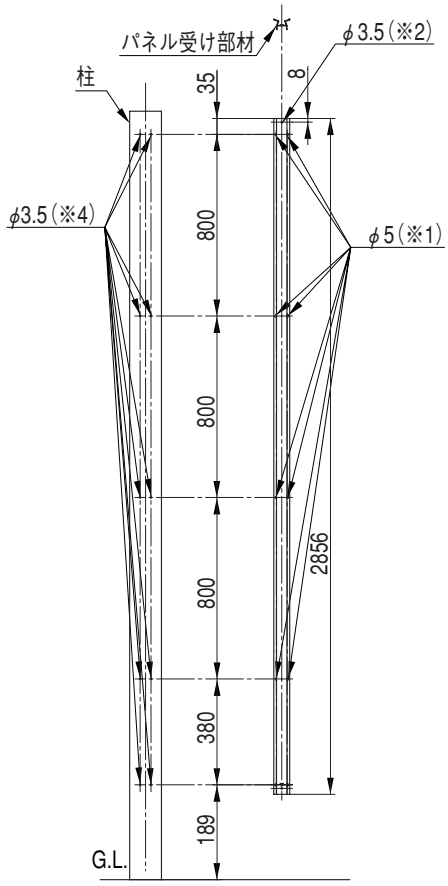


T-26 段違い施工

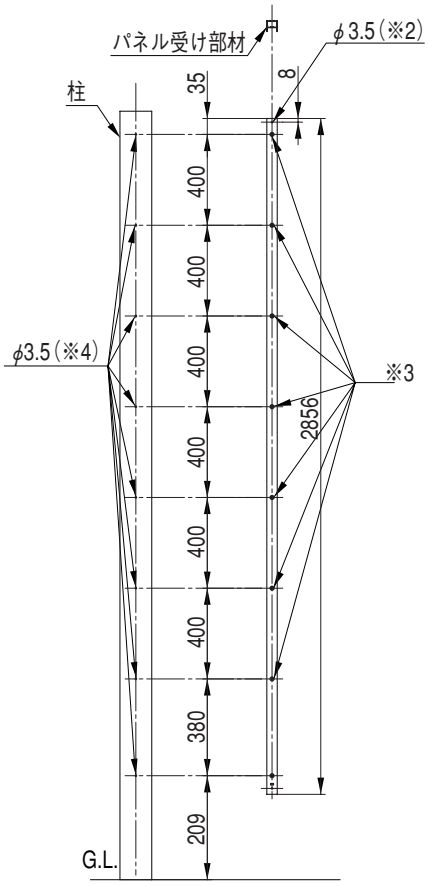
図2-7

C182_201210I

2.つづき



T-30 コーナー施工



T-30 段違い施工

図2-8

❶パネル受け部材の長さを施工高さに合わせて上端より切断してください。

❷パネル受け部材取付孔φ5(※1)、(※3)側枠受け金具3取付孔φ3.5(※2)の孔加工をしてください。
(図2-3,図2-4図2-5,図2-6,図2-7,図2-8参照)

❸パネル受け部材の取付け位置を、G.L.を基準に確認して、柱に下孔φ3.5(※4)の加工をしてください。
(図2-5,図2-6,図2-7,図2-8参照)

ポイント

- コーナー柱の場合、パネル受け部材の取付位置は、図2-1の角度の範囲内です。
- パネル受け部材の孔は一番下のみ工場で加工しています。その孔を基準に加工してください。

2-2 柱・パネル受け部材の組付け

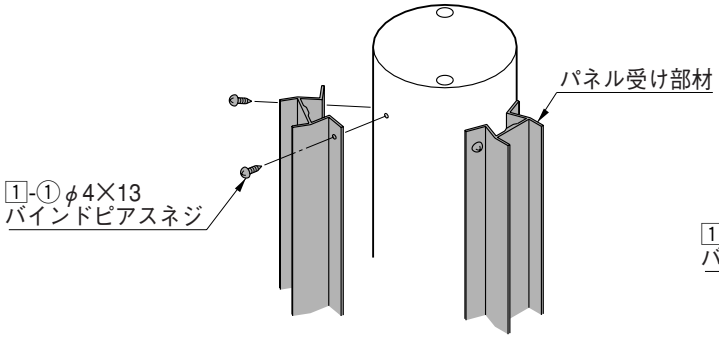


図2-9 コーナー柱

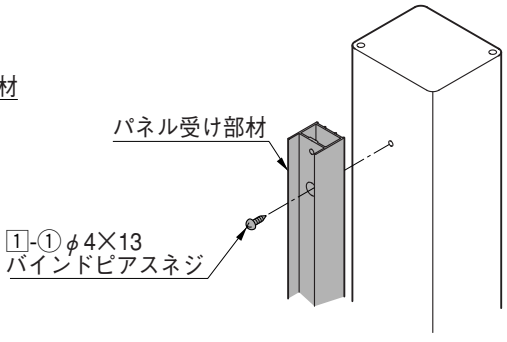


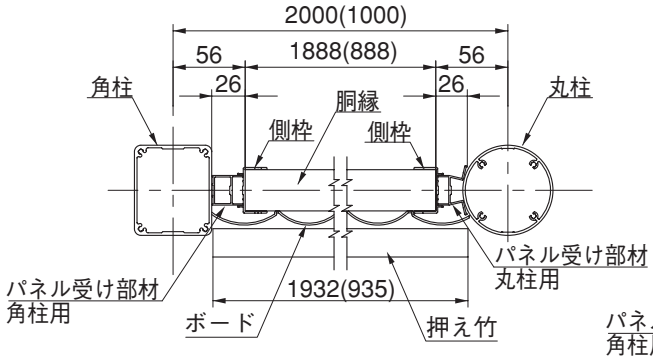
図2-10 段違い施工柱

❶パネル受け部材を1-①で固定して下さい。(図2-9,図2-10参照)

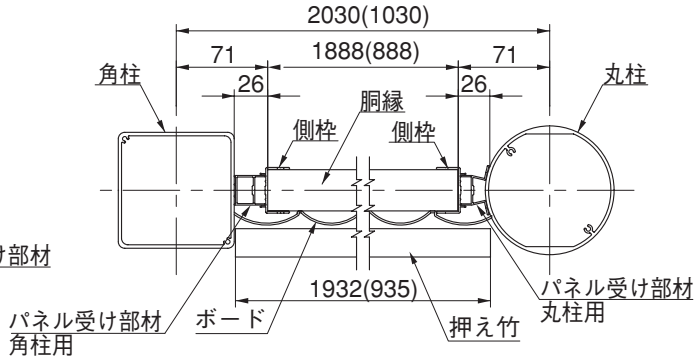
3.パネル本体の切詰め

3-1 基本寸法

※（　　）内はW10の場合です。
※図は片面仕様ですが、両面仕様の場合も同様です。
※図は切断する前の寸法です。



標準柱T-6,10,14,18



高尺柱T-22,26,30

3-2 パネル本体の切断・側枠の取付け

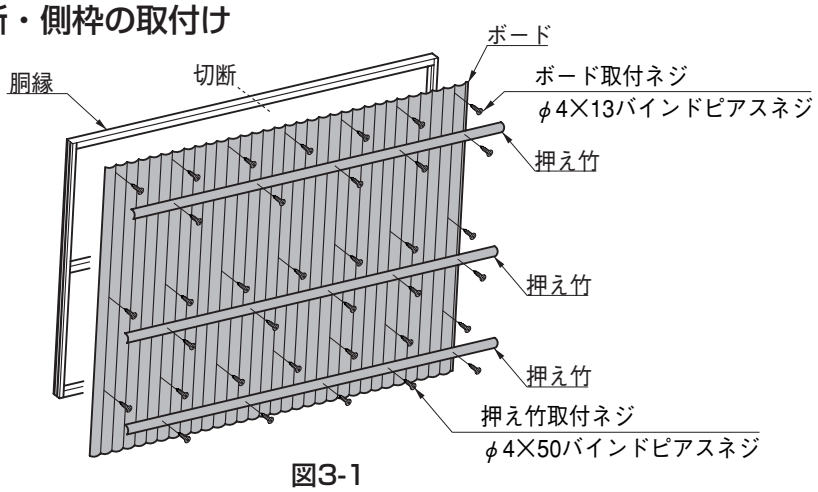


図3-1

❶「押え竹取付ネジ」を外し、押え竹を取りはずしてください。（図3-1参照）
❷「ボード取付ネジ」を外し、ボードを取りはずしてください。（図3-1参照）

ポイント

- 外したネジは再利用するため、捨てないでください。

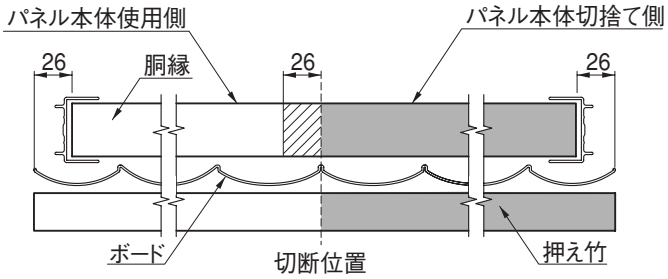


図3-2

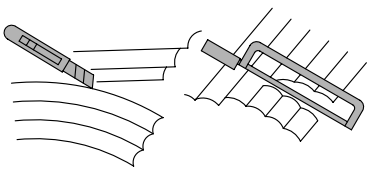


図3-3

❸ボード・押え竹をノコギリ、カッターを使い切断してください。（図3-2,図3-3参照）

注意

- ケガ防止のため、切断面はヤスリ等でバリ取りを行い、鋭利な角部は丸めてください。

❹パネル本体使用側の胴縁はボード・押え竹切断位置から26mm短く切断してください。（図3-2参照）

3.つづき

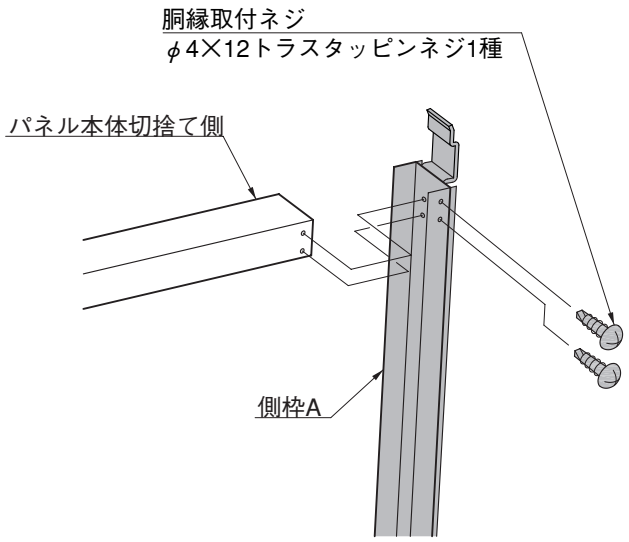


図3-4

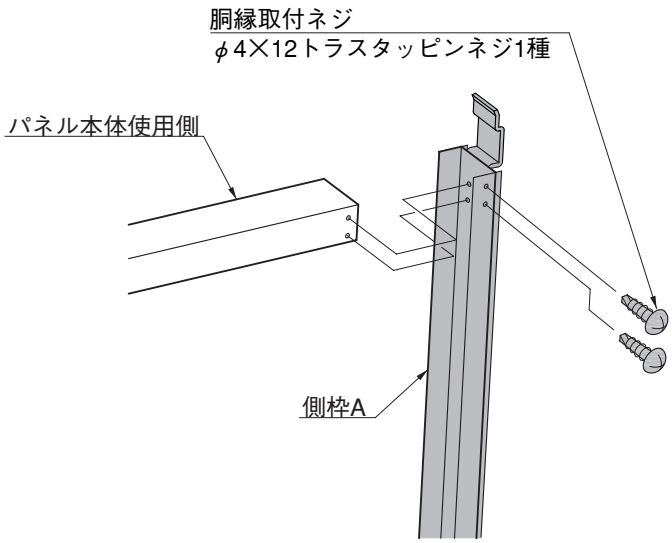


図3-5

❺パネル本体切捨て側から「胴縁取付ネジ」を外し、側枠Aを取り外してください。（図3-4参照）
❻取り外した側枠Aをパネル本体使用側にφ3.5の下穴をあけて、「胴縁取付ネジ」で取付けてください。（図3-5参照）

3-3 ボード、押え竹の取付け

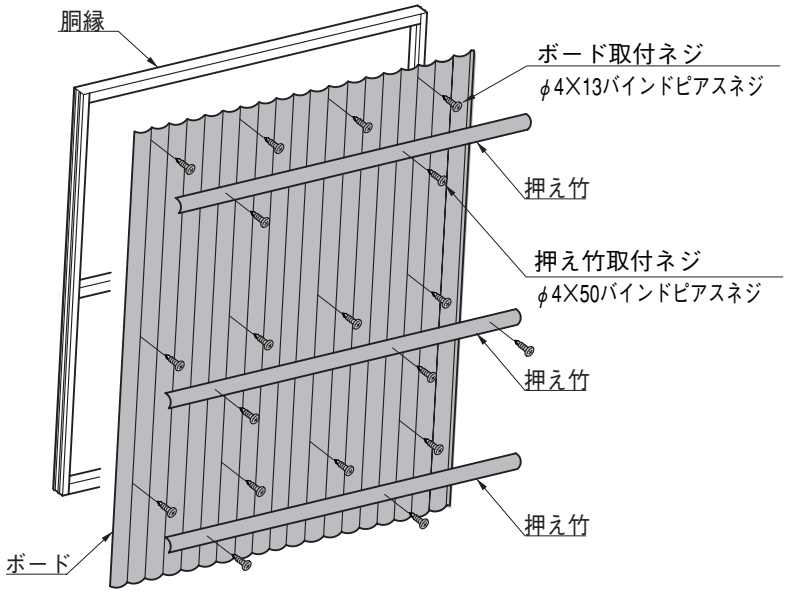


図3-6

❶「ボード取付ネジ」で胴縁にボードを固定してください。（図3-6参照）
❷押え竹を「押え竹取付ネジ」でボードの上から胴縁に固定してください。（図3-6参照）

ポイント

● ボード、押え竹の位置関係は「3-1.基本寸法」を参照してください。

4.パネル本体の組立て

4-1 側枠上キャップの取付け ※「間仕切りタイプ両面仕様」には、側枠上キャップの取付けはありません。

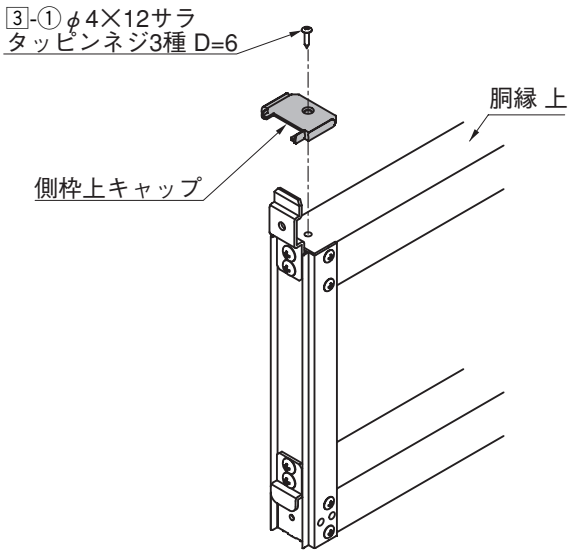


図4-1

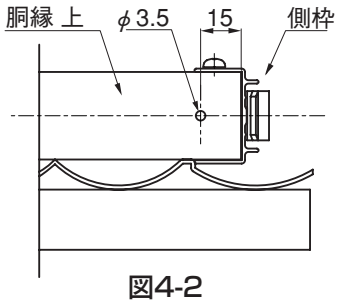


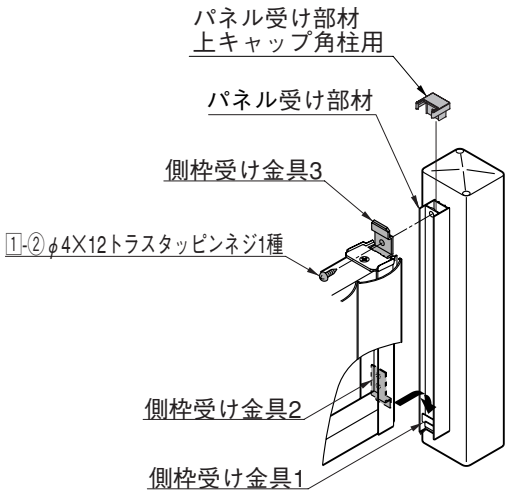
図4-2

❶側枠に側枠上キャップをかぶせ、3-①で胴縁 上に取付けてください。（図4-1参照）

ポイント

- パネル本体を切詰めした場合、胴縁 上に側枠上キャップ取付孔φ3.5をあけて、側枠上キャップを取付けてください。（図4-2参照）

4-2 パネル本体の取付け T-6,T-10の場合 ※図は角柱の取付例ですが、丸柱の場合も同様です。



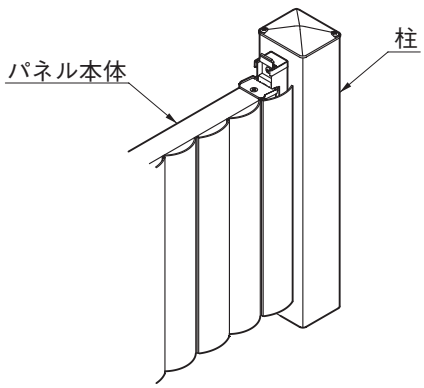


図4-3

❶パネル受け部材上キャップ角柱用を、パネル受け部材にはめ込んでください。（図4-3参照）

ポイント

- パネル受け部材上キャップはT-6,10,14,18サイズへの取付けになります。

❷側枠受け金具2を側枠受け金具1に差込んでください。（図4-3参照）
❸パネル受け部材上キャップ角柱用と共に、側枠受け金具3を1-②で固定してください。（図4-3参照）

4.つづき

4-3 T-14,T-18,T-22,T-26,T-30の場合 ※図は角柱の取付例ですが、丸柱の場合も同様です。

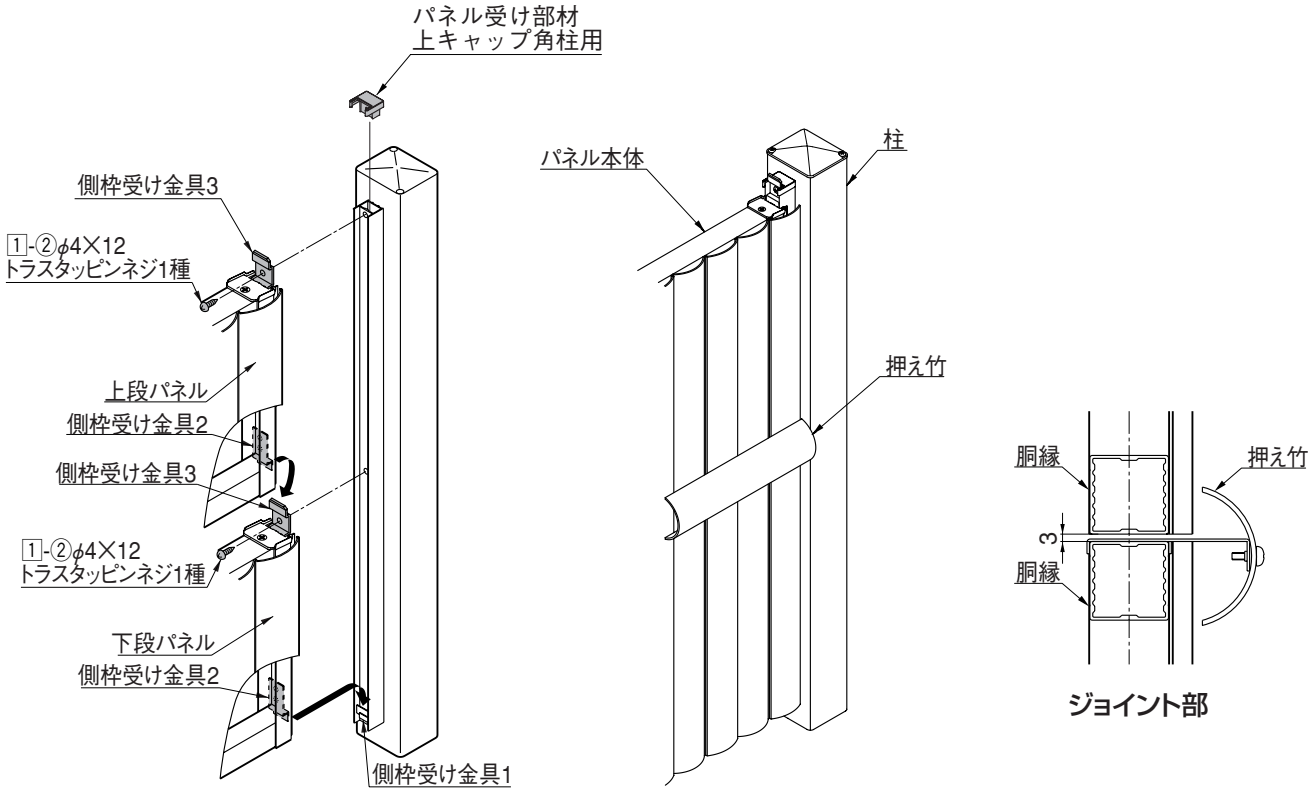


図4-4

❶パネル受け部材上キャップ角柱用を、パネル受け部材にはめ込んでください。（図4-4参照）

ポイント

- パネル受け部材上キャップはT-6,T-10,T-14,T-18サイズへの取付けになります。

❷下段パネルの側枠受け金具2を側枠受け金具1に差込んで、下段パネルの側枠受け金具3を1-②で固定してください。（図4-4参照）
❸上段パネルの側枠受け金具2を下段パネルの側枠受け金具3に差込んでください。（図4-4参照）
❹パネル受け部材上キャップ角柱用と共に、上段パネルの側枠受け金具3を1-②で固定してください。（図4-4参照）

ポイント

- T-22,T-26の場合はパネル本体が3段積み、T-30の場合はパネル本体が4段積みになります。

4.つづき

4-4 側枠下カバーの取付

※図は角柱の取付例ですが、丸柱の場合も同様です。
※「間仕切りタイプ両面仕様」の場合は、側枠下カバーの取付けはありません。

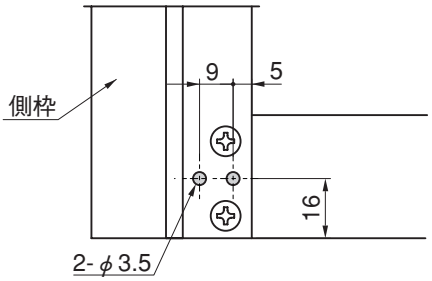


図4-5

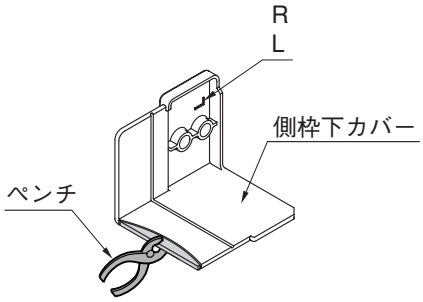


図4-6 丸柱の場合

❶最下段パネルの側枠下部に側枠下カバー取付け孔 (φ3.5)をあけてください。(図4-5参照)

ポイント

- 丸柱の場合は、側枠下カバーのスリット部分をペンチ等で切り取ってください。(図4-6参照)

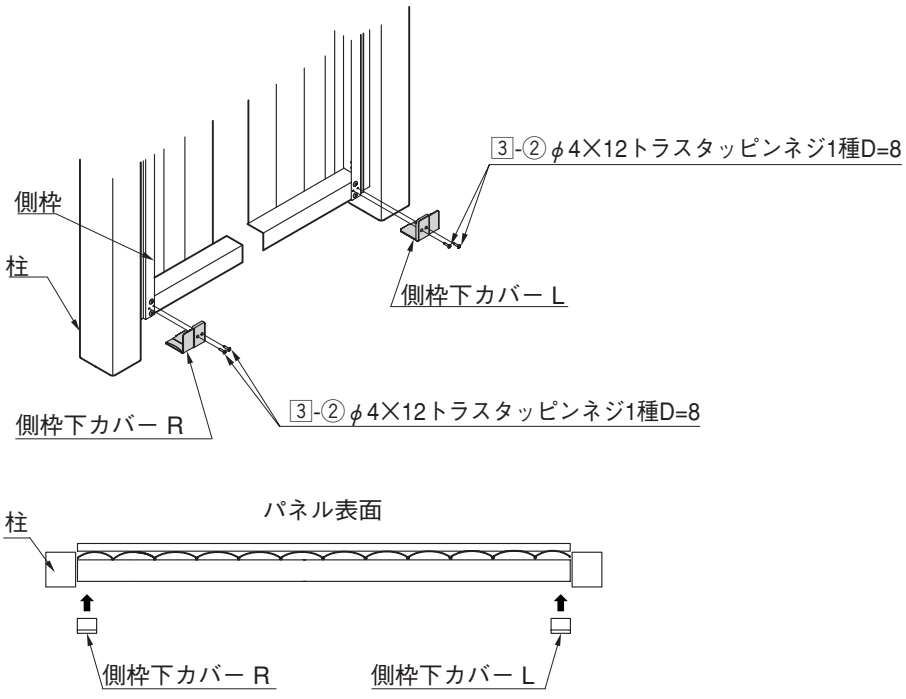


図4-7

❷側枠下カバーを側枠に3-②で取付けてください。 (図4-7参照)

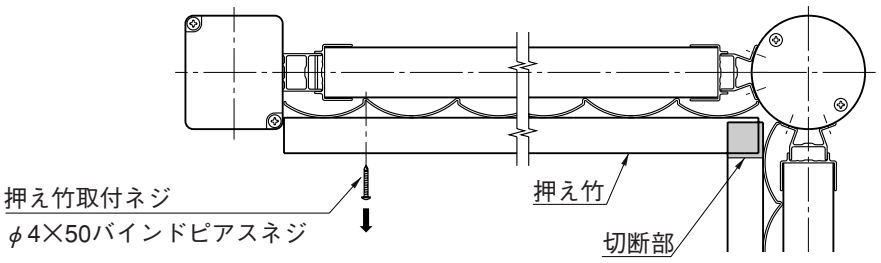
ポイント

- 側枠下カバーのR Lは、裏面にあるR､Lの文字で確認できます。（図4-6参照）

ポイント

- 側枠下カバーは、最下段パネルのみに取付けとなります。

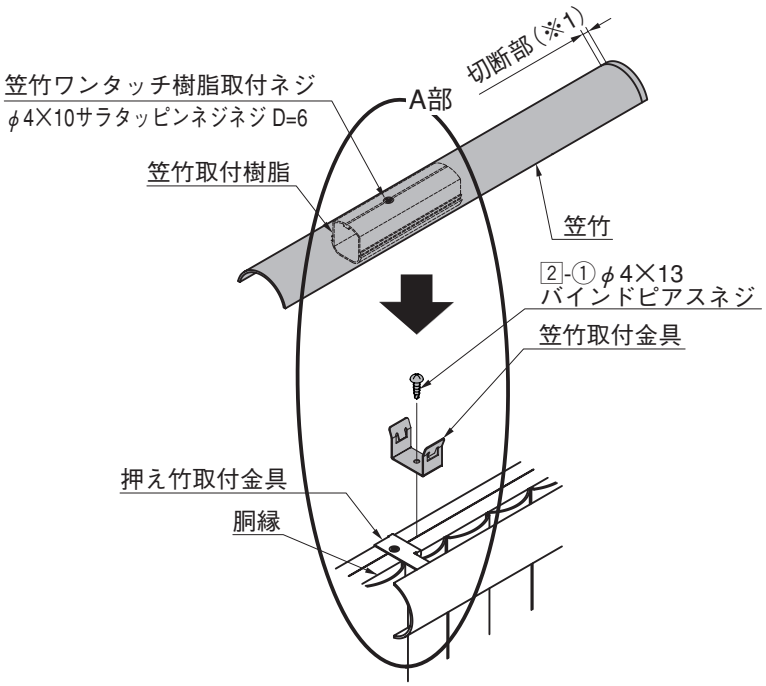
5.コーナーまわりの納まり



ポイント

- コーナー部分で押え竹を切断する場合は、押え竹を固定している「押え竹取付ネジ」をはずしてください。切断後、押え竹をネジ止めしてください。

6.笠竹の取付け　※図は片面仕様の場合ですが、両面仕様の場合も同様です。



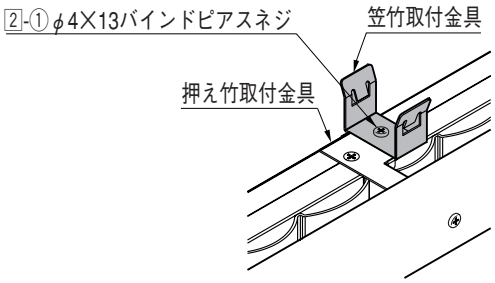


図6-1　笠竹取付金具取付位置

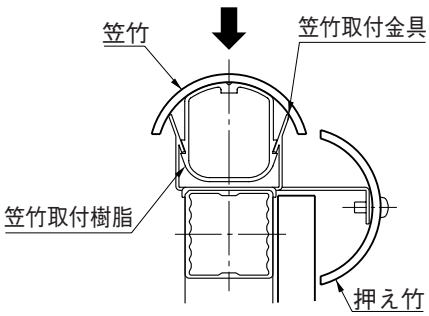


図6-2　A部断面図

❶胴縁の上部に笠竹取付金具を2-①で取付けてください。

ポイント

- 笠竹取付金具は押え竹取付金具に隣接させて取付けてください。（図6-1参照）

❷笠竹取付樹脂を笠竹取付金具にしっかりかみ込むまで押し込んでください。（図6-2参照）

ポイント

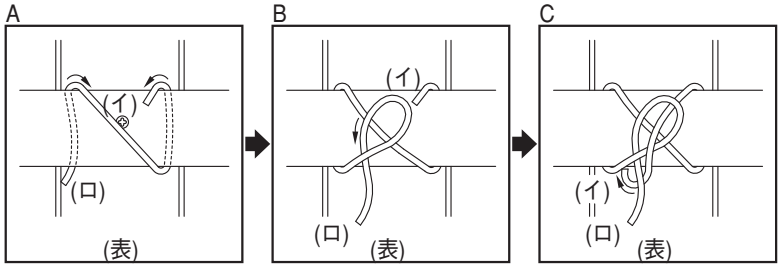
- 笠竹をはずす場合は、「笠竹ワンタッチ樹脂取付ネジ」をはずしてください。
- 笠竹の長さは角柱に合わせてありますので、丸柱の場合は丸柱側の端部を5mm切断してください。（※1）

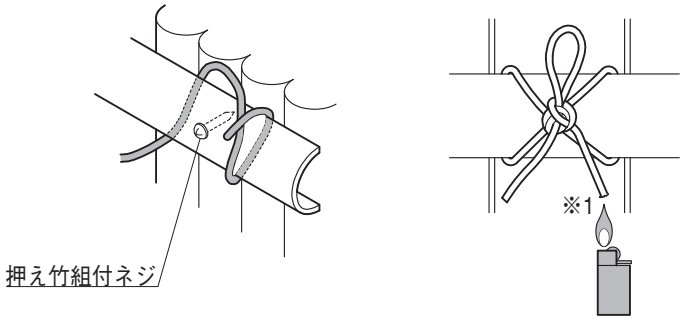
注 意

- 笠竹が、笠竹取付金具にしっかりかみ込んでいるか確認してください。笠竹の取付不良は風による破損・飛散事故の原因になります。

7.シュロ縄のしばり方　※切詰め等により、シュロ縄のしばり直しが必要な場合の作業です。

7-1 押え竹の場合



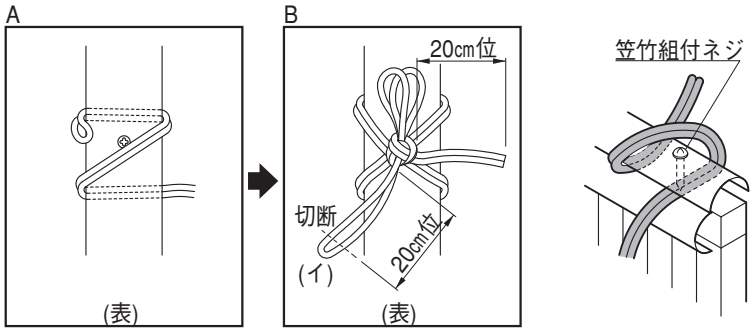


❶A図のように、シュロ縄を押え竹に巻き付けて下さい。
❷B図のように、(ロ)の部分で輪を作りC図のように(イ)を通して下さい。
❸(イ)をもう一度D図のように輪の中に通して、(ロ)を引いて下さい。
❹E図のように、D図で作った輪に(イ)を巻き付けて←方向に引いて下さい。これで完成です。

ポイント

- シュロ縄は、押え竹組付ネジの位置に合わせて取付けて下さい。
- 縄をしばった後、先端をライター等でとかしてほどけないようにして下さい。
  (とかしすぎに注意して下さい。)(※1)

7-2 笠竹の場合



❶A図のように、シュロ縄を2重にして笠竹に巻き付けて下さい。
❷しばり方は、押え竹の場合と同様の手順でしばって下さい。
❸完成後、B図のように(イ)の先端を切断して下さい。

ポイント

- シュロ縄は、笠竹組付ネジの位置に合わせて取付けて下さい。

取説コード
C182

BWM603414F
97-01A
201607J_1049